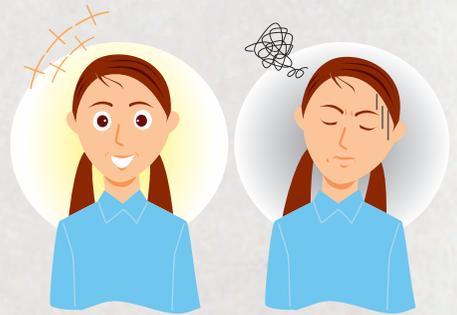


こころ の 健康

気分障害について その1 うつ病は増えているのか

千葉県医師会 ねもと とよみ 根本 豊實 医師

今回から気分障害について簡単に解説します。気分障害は、落ち込んだり、逆に爽快で快活だったり、主に気分に関係する症状が目立つ精神疾患です。その代表的な疾患がうつ病です。うつ病は、生涯有病率が10%から20%と考えられ、決してまれな疾患ではありません。うつ病の症状は、抑うつ的で暗い気分や意欲・



楽しみ・興味が無くなってしまふことなど主観的な気分に関係する症状が中心となりますが、その他にも食欲低下や途中覚醒などの睡眠障害や頭痛・腰痛・倦怠感などの身体症状も高い頻度で出現します。また、うつ病の人は通常、何事も悲観的に考え、自分が周囲の迷惑になっていると自分を責め、場合によっては妄想的となることなど、症状は思考に関係するところにもしばしば及びます。そして、これは重要な点ですが、うつ病の人は自殺のことを考えたり、実行しようとしたりすることがまれならず出現します。うつ病は、適切に治療すれば回復することの多い疾患であり、その意味でも発病早期の迅速で適切な診断が望まれる疾患と言えます。

近年、うつ病と診断される人が増えていることは、様々なメディアで取り上げられていて話題となっているところです。具体的に言えば、1990年前後には、うつ病と診断され治療を受けている人は50万人弱だったのですが、2010年前後には100万人を超えています。つまりこの20年で、うつ病と診断される人が2倍以上となっているのです。それでは実際うつ病は最近になって増えているのでしょうか。この問いには専門家の間でも意見が分かれており、結論は出ていないのが現状だと言わざるをえません。現代化という社会や人間の変化によって実際にうつ病は増えていると主張する専門家もいますが、診断する精神科医の診断基準に関する構えの変更による表面上の増加で、実際は増えてはいないと主張する専門家も少なくありません。

次回は、この近年における診断基準に関する構えの変更に焦点を当て、加えていわゆる新型うつ病にも言及したいと思います。